

総務文教常任委員会

所管事務調査資料

(令和8年4月23日)

(事務調査)

③ 厚真高校活性化促進事業について

生涯学習課社会教育グループ

1 厚真高校活性化促進事業

(1) 事業の目的

地方創成・活性化のひとつとして、北海道厚真高等学校の持続的発展に向けて、現状の課題を把握し、高校、公営塾、行政が一体となり、地域に根ざした特色ある学校づくりを支援する。

また、公営塾の運営により生徒一人ひとりに「伴走」した充実ある高校生活の魅力化など幅広い支援を行うことを目的とする。

また、新たな公営塾の拠点を整備し、地域住民と高校生の接点を生み出しながら、より地域とのつながりを大切にした高校生活の魅力化を目指す。

(2) 活動拠点

- ①名称 公営塾「よりみち学舎」
- ②場所 厚真町字本郷234番地の6（厚真町スポーツセンター会議室内）
- ③対象 北海道厚真高等学校生徒1～3年生
- ④所管 厚真町教育委員会生涯学習課社会教育グループ
- ⑤運営体制 令和8年4月1日現在
主担当職員1名・副担当1名・会計年度任用職員1名
地域おこし協力隊（教育魅力化支援員）1名

(3) これまでの経緯

①地域おこし協力隊（教育魅力化支援員）

- 令和3年4月 公営塾設置のための準備事務開始（生涯学習課学校教育G）
- 令和3年8月 公営塾開所に向けた準備のため地域おこし協力隊2名着任（加藤・川嶋）

※地域おこし協力隊：総務省の地方創生政策の1つ。地域活性化を担う人材の都市部から地方への移住・定着を促進するもの。財源は特別交付税措置。

- 令和4年1月 公営塾開所（厚真町スポーツセンター内）
- 令和4年4月 地域おこし協力隊1名（山中卓也）が新たに着任し3名体制
- 令和6年4月 社会教育グループへ移管
- 令和7年3月 上記3名が退任（任期3年＋コロナ特例措置6か月延長）
- 令和7年4月 地域おこし協力隊2名着任（山中恵杜・鈴木）
- 令和8年3月 上記のうち1名退任（鈴木）

現在、地域おこし協力隊は1名体制（山中恵杜）

（町教委ふるさと教育推進コーディネーター1名が補助・活動支援）

②1日の利用生徒平均人数

- 令和4年度 15名（1年生10名・2年生2名・3年生3名）
- 令和5年度 18名（1年生8名・2年生10名・3年生2名）

令和6年度 26名（1年生6名・2年生10名・3年生10名）

令和7年度 22名（1年生8名・2年生8名・3年生6名）

(4) 事業概要

①公営塾の設置

貴重な高校生活3年間を充実させ、魅力あるものとするための幅広い支援を行う活動拠点として、公営塾「よりみち学舎」を開所している。

②地域おこし協力隊・教育魅力化支援員の委嘱任命

公営塾の運営等のスタッフとして地域おこし協力隊3名を委嘱任命している（令和8年4月1日現在は1名の委嘱）。

③高校との連携強化

地域に根差す特色ある高校づくりの一環として、総合的探究学習や職場体験、各種地域学習などにおいて、地域住民と高校との調整業務のほか、高校の授業補助や学習準備などの支援をおこなっている。

④高校魅力化アドバイザー委託業務

公営塾を設置する自治体は全国で64ほどあり、その運営や人材確保などを支援している全国展開の事業者へのアドバイザー委託業務を発注している。

④公営塾拠点整備計画

公営塾は令和4年1月からスポーツセンター会議室を一時的に利用している。開所後4年が経過し来塾生徒数は増加傾向にありや活動も多様化してきている。このため次のステップとして、地域に開かれた公営塾を目指し新たな拠点を整備する計画である。

2 活動・業務内容

(1) 公営塾「よりみち学舎」の活動（資料1）

生徒の「やりたい」を実現する主体性を育む実践的教育活動をサポートする。放課後活動での様々な経験・体験による「人生の学び」が体験できる環境を提供する。

①仲間づくりの場

生徒の自主性による塾内での雑談交流や各種チームスポーツ、学校祭準備（楽器演奏）、木工活動など

②自主学習などの場

定期試験前などを中心に生徒自身による各自の自習のほか、生徒同士が教え合う学力向上の場づくり。

③地域活動参画の場

(2) 地域おこし協力隊・教育魅力化支援員の活動

生徒自らが田舎まつりや地域イベント等への出店及び参画など。

①活動準備・伴走型活動

来塾生徒の活動環境を整える各種準備作業

- ・必要な資機材や消耗品の購入などの調達や個別相談に関する情報収集や調査など。
- ・生徒の地域イベント等への参画に関する情報収集や事業支援など。

②学校生活や進路の相談

スタッフが生徒と個別に学校生活の悩み事や将来に向けた進学・就職に関する初期相談などを行う。厚真高校の担当教員への情報共有を積極的に行い、生徒の進路実現を図る。

③来塾生徒への学習支援

高校での学習内容習得に不安を抱える生徒への教科復習のほか、試験対策などの補習的学習支援など。

④厚真高校への授業支援

主に総合的探究学習や職場体験（キャリア教育）など、授業の目的効果、行程を踏まえた高校教員や生徒、地域事業者などとの連絡調整など。

(3) 高校・教育委員会事務局との連絡調整・連携強化

①実務者会議の開催

教育委員会職員、地域おこし協力隊、アドバイザー受託事業者が参集し、協力隊からの公営塾の活動準備状況や実績報告、教育委員会からの指示伝達事項の共有のほか、今後の活動に関する方向性などを検討する会議を隔週で実施している。

②高校魅力化会議の開催

上記のほか、厚真高校管理職、関係教職員なども出席し、高校側が求める協力隊の支援活動や生徒の学校生活状況、各立場での課題などの共有を図る。高校・行政・協力隊の信頼関係構築に寄与している。

(4) 高校魅力化アドバイザー委託業務

高校生対象の公営塾は全国64か所（2023年6月・公営塾研究プロジェクト信州大学）があり、全国40か所以上の高校魅力化を支援し、信頼ある実績と専門性を有している株式会社Prima Pinguino（プリマペンギノ）に委託発注している。

<業務内容>

- ①高校魅力化推進に関する指導・助言業務（ヘルプデスクの開設、関係機関との協議・調整支援、探究学習の設計・運営支援）
- ②公営塾運営支援（公営塾スタッフへの助言・サポート業務、定例ミーティングの開催・参加、研修の実施）

- ③公営塾スタッフ（協力隊）への個別支援（個別面談、キャリア支援）
- ④全国展開の公営塾ネットワークを活用したノウハウ支援及び視察研修コーディネート
- ⑤教育魅力化支援員の採用支援業務
- ⑥その他、本業務に関すること

3 今後の展望

(1) 公営塾の活動

①これまでと今後の事業展開

第1段階：公営塾の安定的運営の確立（令和4年度～7年度）

- ・生徒が安心でき、充実した放課後の居場所づくり
- ・協力隊や町教委等運営スタッフによる高校生のニーズの把握
- ・厚真高校との信頼関係構築
- ・厚真高校並びに生徒と地域との連携づくり

第2段階：厚真高校生の地域展開確立（令和8年度～11年度）

- ・生徒の自主的活動の地域展開
- ・地域からの高い認知度の獲得
- ・上記の活動を支える公営塾活動拠点の整備

第3段階：厚真高校の地域ブランド化の確立（令和12年度～）

- ・生徒自身に自主自立的形態での公営塾運営
- ・地域住民や地域団体、企業との連携
- ・市街地の文化交流施設との連携事業の確立
- ・地域一体型高校教育モデルの実践

(2) 公営塾拠点整備（資料2） 令和8年度予算額：87,780千円（設計込）

これまでの公営塾での生徒の活動状況を踏まえ、前述の第2段階に向けた公営塾のより充実した活動拠点を機能的整備する。次の第3段階へ有意義な放課後活動とし地域住民も共につどい、交流する「地域一体型の高校」を目指す。

これらの目指す「貴重な人生経験」が、卒業後の社会人、進学においても、これからの社会が望む人材育成にも寄与していくものと考えている。

- ①学習スペース・生徒自身の個別学習や小グループ学習エリア
- ②多目的活動スペース・楽器演奏等、生徒の幅広い積極的活動が可能なエリア
- ③地域交流スペース・生徒同士の交流に留まらず、地域住民との交流による高校の探究学習の素材・地域課題の発見や深堀、生徒自身の社会性や進路などの将来像を育むエリア